おきなわの 川と海 2025

河川・ダム・海岸・港湾海岸・土砂災害・災害復旧

沖縄県　河川課・海岸防災課　事業概要

沖縄県の自然環境の概要

位置

本県は、九州から台湾に連なる南西諸島の南半分、およそ北緯24度から28度、東経122度から132度に位置しており、距離にして東西約1,000km,南北約400kmに及び広大な海域に散在する島々から成っている。

本県には、沖縄諸島、先島諸島、尖閣諸島、大東諸島など多数の島々があり、そのうち有人島は48[注]である。

また、沖縄県には平成25年4月に中核市に移行した那覇市をはじめ41の市町村がある。

(注)：令和２年国勢調査により人口が確認されている島に、令和５年１月１日現在の住民基本台帳人口も勘案している。
有人島には、沖縄本島及び同島と架橋等で連結された島(大宜味村宮城島、名護市屋我地島、本部町瀬底島、今帰仁村古宇利島、うるま市伊計島、宮城島、平安座島、浜比嘉島、南城市奥武島)を含む。

面積

県土の総面積は2,282.11km^2[注]で、国土総面積(377,979.67km^2)の約0.6%となっており、香川県、大阪府、東京都の次に全国で4番目に小さい。

(注)：令和７年10月１日現在(国土交通省国土地理院)

気象

亜熱帯性海洋性気候にあり、年平均気温は23.3度[注1]と1年を通じて温暖で、サンゴ礁の発達した海、イリオモテヤマネコやノグチゲラ等貴重な野生動植物が生息・生育するなど、優れた自然環境に恵まれている。

年平均降水量は、約2,161.0mm[注1]で全国(1,662mm[注2])30%上回っており、全国でも比較的雨量の多い地域である。

(注1)：1991年から2020年までの那覇における平均値である。
(注2)：全国平均は、県庁所在地等における観測値の単純平均である。

河川環境

琉球列島の河川は、本土河川と比較して流路延長が短く急流となっています。そのため、海域から河川へ遡上する魚類が上流域まで到達できない場合もあり、河川環境によって生物相が限定される特徴があります。そこに生息する在来種の多くが絶滅のおそれのある種としてレッドリストに記載されています。

＜河川に生息・生育する動植物＞

植物

コケタンポポ	オキナワヒメナキリ

動物

ヨロイボウズハゼ	オキナワミナミヤンマ
アオバラヨシノボリ	カラスヤンマ
オキナワイシカワガエル	ミナミメダカ
オキナワオオサワガニ	タイワンキンギョ
アラモトサワガニ	

出典：第３次沖縄県環境基本計画

水環境の保全

河川等の公共用水域の水質状況を把握するため、水質汚濁防止法第16条に基づいて公共用水域の「水質測定計画」を策定し、監視測定を実施しています。

（１）水質測定
ア 人の健康の保護に関する項目
26河川の42地点でカドミウム等の25項目
39地点でふっ素・ほう素の2項目を測定。
イ 生活環境の保全に関する項目（BOD等）
26河川65地点で測定。
内訳：環境基準点37地点
補助測定点24地点
類型指定なし4地点
（２）低質測定
17河川17地点で、カドミウム等10項目を測定

公共用水域の常時監視（26河川[注1]）

比謝川	我部祖河川	久茂地川	辺野喜川	雄樋川
国場川	新川川	安里川	源河川	億首川[注2]
満名川	安波川	饒波川	平南川[注1]	
福地川	普久川	安謝川	大保川	
漢那福地川	汀間川	報得川	宮良川	
羽地大川	天願川	牧港川	名蔵川	

(注1)：市町村管理河川も含む。
(注2)：億首川については類型指定は行っていません。

出典：令和６年度版 環境白書(沖縄県)

沖縄の河川

本県の主島である沖縄本島の地形は、細長い形で中央部を100～500mの山地又は、丘陵地帯が縦走し、35～40度の傾斜をなしています。島の幅が狭いため、流路延長が短く、河川は急流となり、これが平地部に入ると1/200以上の緩勾配を形成しています。近年は河川流域の開発や気候変動の影響により、流出率の増大や保水力の低下など、河川に係る諸条件が悪化し、浸水被害は増大の傾向にあります。都市部の河川については、浸水の慢性化、河川護岸の決壊等、今後ますます河川の氾濫による水害が増大するものと予想されることから早急な対策を要します。一方、快適なまちづくりの形成を図るため、河川環境整備の促進を図る必要があります。

本県には、大小300余の河川があり、これらの河川のうち特に重要な51水系75河川を2級河川に指定し(指定延長357.8km、流域面積911.57km^2)整備を進めています。

沖縄県の川づくり

これまでの川づくりは、洪水等の自然災害から人々の生活を守ることを重点的に整備がなされ、治水安全度は向上しましたが、コンクリート張りの護岸は、人々を川から遠ざけてしまいました。

全ての川づくりの基本である「多自然川づくり」の理念を基に、河川全体の自然の営みを視野に入れ、地域の暮らしや歴史・文化との調和にも配慮し、河川が本来有している生物の生息・生育・繁殖環境及び多様な河川景観を保全・創出するために、河川管理を行っています。

県では、「環境」「治水・利水」「歴史・ふるさと」の３つを基本理念とし、県民の命と暮らし、産業に必要な水の確保及び安全で潤いのある水辺づくりに取り組んでいます。

●環境
山、川、海の豊かな自然が息づく川づくり

●治水・利水
人々の豊かさを守り、期待される機能を十分に果たす川づくり

●歴史・ふるさと
歴史にいだかれ、郷土の豊かさと安らぎをもつ川づくり

緊急浚渫事業

県では、河川氾濫などの浸水被害の防止等のため、緊急浚渫推進事業債（事業期間は令和11年度まで）を活用して浚渫に関する個別計画に基づき浚渫（土砂等の除去・処分、樹木伐採等を含む）を行っています。

トピックス ～河道管理に配慮するイメージ～

出典：総務省ＨＰ

流域治水について

「流域治水」とは、気候変動の影響による水災害の激甚化・頻発化等を踏まえ、堤防の整備、ダムの建設・再生などの対策をより一層加速するとともに、集水域（雨水が河川に流入する地域）から氾濫域（河川等の氾濫により浸水が想定される地域）にわたる流域に関わるあらゆる関係者が協働して水災害対策を行う考え方です。

令和元年東日本台風をはじめ、平成30年7月豪雨や平成29年九州北部豪雨等、近年激甚な水害が頻発しており、今後、気候変動による降雨量の増大や水害の激甚化・頻発化が予測されています。このような水災害リスクの増大に備えるために、河川・下水道等の管理者が主体となって行う治水対策に加え、流域全体で水害を軽減させる治水対策、「流域治水」への転換を進めています。

当県では、県管理河川において、流域全体で早急に実施すべき河川対策、流域対策、ソフト対策からなる流域治水の全体像「流域治水プロジェクト」としてとりまとめ、公表しています。

取組1
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

取組2
被害対象を減少させるための対策

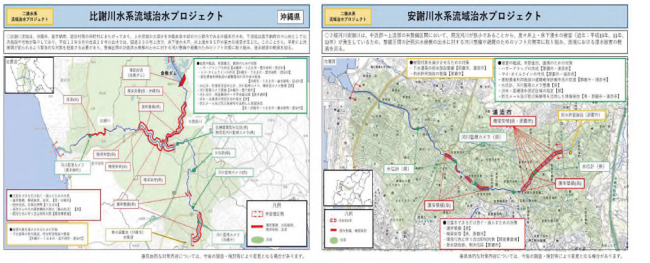
取組3
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

あらゆる関係者の協働による
流域治水の加速化・深化

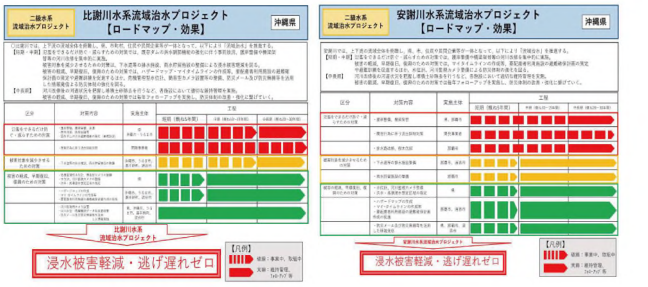
出典：国土交通省HP

流域治水プロジェクト

【ポイント1】様々な対策とその実施主体を見える化



【ポイント2】対策のロードマップを示して連携を推進



洪水浸水想定区域図の指定・公表

近年、集中豪雨等による水害が頻発しており、全国的に短時間で河川が増水する事例も増えてきています。洪水時の被害を最小限にするためには、平時より水害リスクを認識したうえで、氾濫時の危険箇所や避難場所についての正確な情報を知っていただくことが何より重要です。

当県では、洪水時の円滑かつ迅速な避難を確保し、又は浸水を防止することにより、水害による被害の軽減を図るため、水防法第14条に基づき想定し得る最大規模の降雨により当該河川が氾濫した場合に浸水が想定される区域を洪水浸水想定区域として指定し、指定の区域及び浸水した場合に想定される水深等を洪水浸水想定区域図として公表しています。

水防法改正により、対象河川が洪水予報河川及び水位周知河川に加え、住宅等の防護対象のある中小河川まで拡大されています。

※洪水浸水想定区域図は河川課HPまたは沖縄県地図情報システムで確認できます。

河川情報システム

沖縄県河川情報システムとは、水防活動に資することを目的に整備した防災情報システムです（図1）。県内の主要な河川にテレメータ（水位計・雨量計）や河川監視カメラを設置し、水文観測データ等を収集・公開しています（図2）。

図1.沖縄県河川情報システム

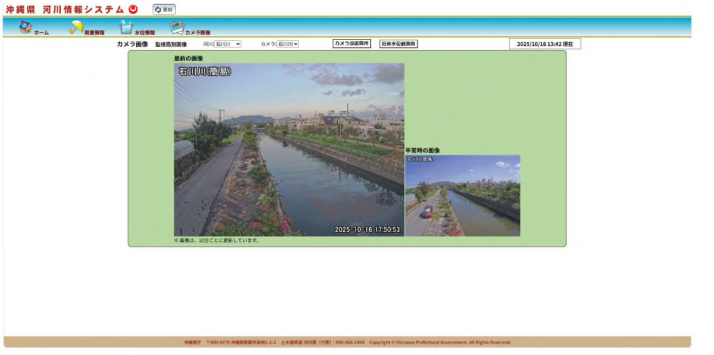


図2.河川監視カメラ(うるま市石川川)

水位・雨量情報

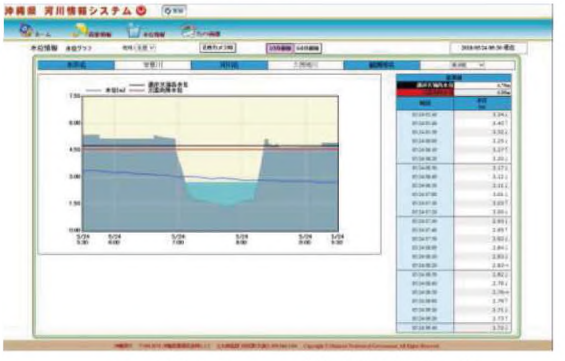


図3.水位グラフ（美栄橋観測局）

水位情報タブから、観測された水位データを確認することができます。10分水位の場合は直近4時間分、時間水位の場合は直近24時間分のデータがそれぞれ表示されます。

また、水位周知河川においては、氾濫危険水位と護岸天端高水位が表示されます。（図3）

同様に雨量情報タブから、観測された10分雨量や時間雨量、累加雨量を確認することができます。10分雨量の場合は直近4時間分、時間雨量の場合は直近24時間分のデータがそれぞれ表示されます。

累加雨量とは、降り始めからの総雨量のことで、3時間降雨が0mmの場合にカウントがリセットされます。（図4）

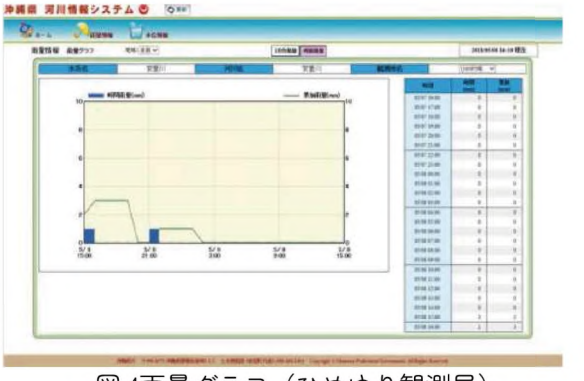


図.4雨量グラフ（ひめゆり観測局）

メール配信サービス

沖縄県河川情報システムでは、河川の水位上昇をメールで通報する機能があります。メールの配信基準として、水位周知河川の場合は「氾濫危険水位」及び「護岸天端高水位」、その他の河川では「6割水位」及び「8割水位」が設定されています（左下表1）。

水位周知河川		
中部管内	1	比謝川
	2	天願川
	3	小波津川
南部管内	4	安里川
	5	久茂地川
	6	真嘉比川
	7	安謝川（古島）
	8	安謝川（石嶺）
	9	国場川（兼城）

令和2年12月現在

その他の河川		
北部管内	10	幸地川
	11	屋部川
	12	西屋部川
	13	我部祖河川
	14	源河川
中部管内	15	石川川
	16	白比川
	17	普天間川
	18	牧港川
	19	小湾川
南部管内	20	国場川（真玉橋）
	21	長堂川
	22	報得川

表1

図.5 配信メール

また、配信箇所は任意の箇所を指定することができ、配信基準も任意で設定することが可能です。左図.5が配信されるメールの文面です。

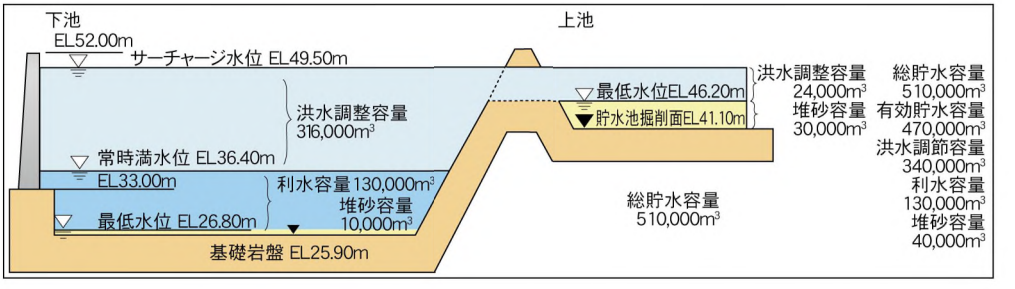
ダム事業の概要

県管理ダム

①治水ダム（金城ダム）

洪水時に上流からの河川流量をダムで調節し、下流の洪水被害の軽減を図ります。

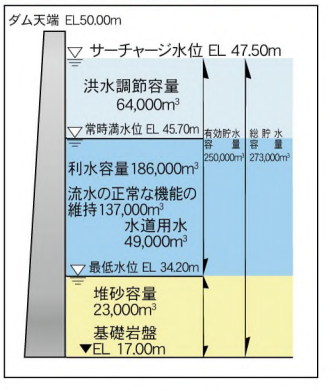
●貯水池容量配分図



②多目的ダム

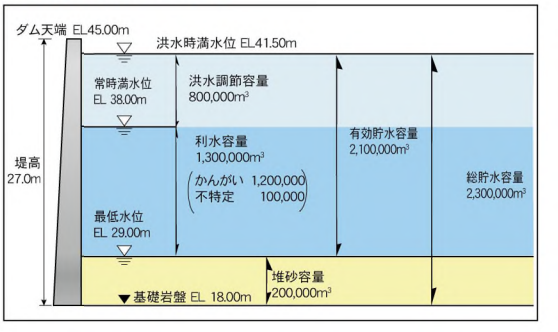
我喜屋ダム：中の川水系シチフ川の上流に建設された多目的ダムで、洪水調節のほか、水道用水の水源として利用されています。

●貯水池容量配分図



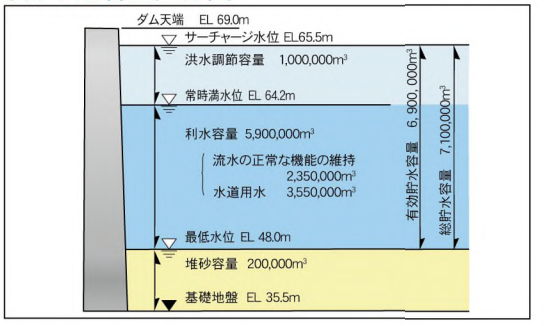
真栄里ダム：於茂登岳を源とする二級河川宮良川の上流に建設された多目的ダムで、洪水調節のほか、かんがい用水の水源として利用されています。

●貯水池容量配分図



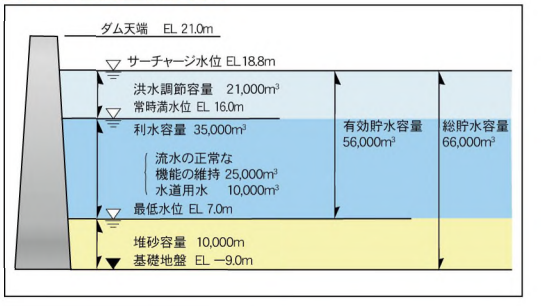
倉敷ダム：比謝川水系与那原川上流に建設された多目的ダムで、洪水調節のほか、水道用水の水源として利用されています。

●貯水池容量配分図



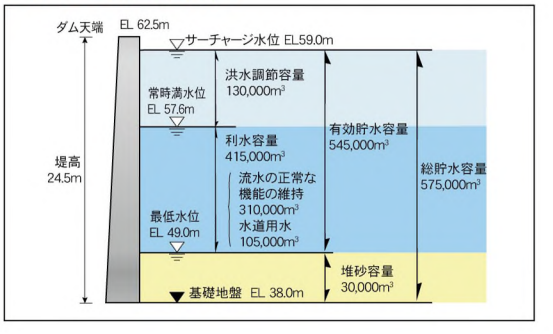
座間味ダム：内川の上流に建設された多目的ダムで、洪水調節のほか、水道用水の水源として利用されています。

●貯水池容量配分図



儀間ダム：儀間川の上流に建設された多目的ダムで、洪水調節のほか、水道用水の水源として利用されています。

●貯水池容量配分図



県管理ダム諸元表

	真栄里ダム（まえざと）	座間味ダム（ざまみ）	倉敷ダム（くらしき）		金城ダム（きんじょう）	我喜屋ダム（がきや）	儀間ダム（ぎま）
位置	石垣市	座間味村	うるま市･沖縄市		那覇市	伊平屋村	久米島町
河川名	宮良川	内川	与那原川		安里川	シチフ川	儀間川
目的	F.N.A	F.N.W	F.N.W		F.N	F.N.W	F.N.W
総貯水容量千m³	2,300	66	7,100		510	273	575
有効貯水容量m³	2,100	56	6,900		470	250	545
治水容量m³	800	21	1,000		340	64	130
利水容量m³	1,300	35	5,900		130	186	415
型式	E	G	本ダムR	脇ダムR	G	G	E
堤高m	27.0	30.0	33.5	15.0	19.0	33.0	24.5
供用開始年度	昭和59年度	平成4年度	平成8年度		平成13年度	平成19年度	平成28年度

目的(F:洪水調節　N:流水の正常な機能の維持　A:かんがい用水　W:水道用水)
型式(G:重力式コンクリートダム　R:ロックフィルダム　E:アースフィルダム

河川の管理と利用

河川管理の目的

河川は人々にとって憩いや潤いをあたえる水辺空間として、みんなの大切な共有財産です。集中豪雨時に雨水を速やかに海に流出させ、洪水被害を防止する治水機能を保全するとともに、地域住民が水に親しむ空間として良好な環境を保全するための管理を行います。

河川はどのような種類があり、誰が管理しているのでしょう。

1. 法定河川（河川法によって管理されている河川）
   一級河川：国土交通大臣管理（沖縄県になし）
   二級河川：県知事管理（51水系75河川）
   準用河川：市町村管理（14水系22河川）
2. 法定外河川（河川法が適用されない河川）
   普通河川（市町村管理）

次の様な行為をしようとするときは事前に許可が必要です。

1. 河川の土地における工作物の新築、改築又は除去についての許可。
2. 河川の流水の占用の許可（河川からの取水の許可）。
3. 河川の土地の占用の許可。
4. 河川の土地における土石等の採取の許可。
5. 河川の土地における土地の掘削、盛土又は切土についての許可。

河川の利用及び愛護活動

河川の良好な環境を積極的に整備、保全し、美しく、正しく利用、管理されるよう地域住民、市町村、各種団体等と連携して清掃を行なっています。

河川の利用（比謝川）

河川清掃活動（幸地川）

かわまちづくり

旭橋周辺には、オフィスビルやホテルが竣工し、飲食店も増加しています。モノレール旭橋周辺地区の再開発に併せて、散策路や親水テラス等を整備することにより、那覇市の玄関口としての「顔」となる快適で魅力ある空間の創出に取り組みました。

毎年5月には「鯉のぼりフェスタ」を開催するほか、冬にはイルミネーションや地元の活動など、様々なイベントが行われています。

「かわまちづくり」とは？

河川空間とまち空間が融合し、賑わいあるまちづくりによる地域活性化に資する良好な空間形成を目指す取組み。